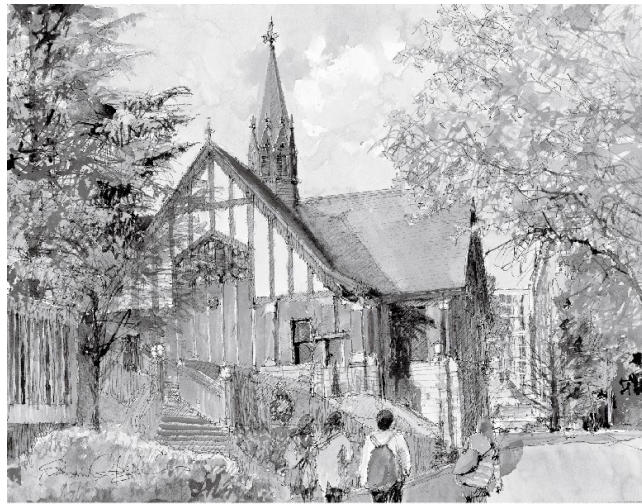


2027年度（春学期）経済学部

ゼミナールガイドブック



COOL HEADS BUT WARM HEARTS
ALFRED MARSHALL

明治学院大学経済学部

渥美 利弘 ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。

より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。

- ・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか）、貿易が行われたときの経済的影響、貿易政策
- ・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）
- ・貿易統計の分析

以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近は働き方とグローバル化、サービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333>

李 惠源（イ ヘウォン） ゼミナール

演習のテーマ

韓国の社会と文化

演習の内容

本ゼミナールでは、韓国の歴史・政治・経済・社会・文化や日本との交流などについて学びながら、日本にとって「重要な隣国」である韓国への理解を深めていくことを目標とします。

3年次のゼミでは、以下のテーマを中心に関連文献を読み、ブックレビューを作成し、プレゼンテーションを行なってもらいます。また各学期1回、フィールドワークも実施します。

○ テーマ

- ・ 朝鮮半島の歴史
- ・ 日本と朝鮮半島の交流史
- ・ 韓国の伝統的な芸術・建築・遊びなど
- ・ 朝鮮半島における地域別の食文化
- ・ 韓流ブームの歴史
- ・ 現代韓国の経済発展
- ・ 激変する現代韓国の政治
- ・ ノーベル文学賞受賞作家ハン・ガンの作品探索
- ・ 在日コリアンの歴史と現状
- ・ 日本に進出した韓国企業に関する調査 など

○ フィールドワーク:

- ・ 春学期：東京新大久保のコリアンタウン
- ・ 秋学期：東京にある韓国企業訪問

4年次のゼミでは卒業論文の作成を中心に行います。上記のテーマの中から論文のテーマを決め、関連文献を収集・調査しながら理解を深めたうえで、論文の構成（アウトライン）を作成し、執筆を進めていきます。毎回のゼミでは、その進捗状況を報告します。

井川 ジェニファー ゼミナール

演習のテーマ

Leaders Worth Following: A Seminar on Leadership and Character

演習の内容

Who is worth following?

This is one of the most important questions you will face in your career. It is also one of the hardest to answer. This seminar will help you find your answer.

We read powerful works of fiction — such as stories by Louis Auchincloss and Robert Bolt's *A Man for All Seasons* — and ask: what makes a good leader? What kind of person should you trust? What kind of leader do you want to become?

Fiction is a surprisingly useful tool for this. It shows us a complete person — their strengths, their weaknesses, and the choices they make under pressure. Learning to understand the motivations of characters in books helps you understand real people in real workplaces.

In the **first year**, you will read, discuss, and write about leadership and character. You will practice sharing your opinions and building arguments in English. As the year goes on, you will take turns leading class discussion — because leadership starts in the classroom. *The ability to discuss leadership, explain your values, and express your ideas clearly in English are also skills that will help you stand out during job hunting.*

In the **second year**, you will research and write a graduation thesis on a leadership topic that interests you. This is a serious piece of academic writing in English — *evidence of your ability to think independently and see a large project through to the end.*

By the end of this seminar, you will be better at judging people, clearer about your own values, and more confident in English. Most importantly, you will have a better answer to the question we started with: *who is worth following — and what kind of leader do you want to become?*

生方 雅人 ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンス（企業財務・投資理論）はビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の1つです。企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどのビジネスや M&A に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式、債券、投資信託といった金融商品の特性やリスク管理、投資戦略について考えます。

学生時代にもっと深く学んでおけばよかったことに関する最近の民間企業による意識調査では、トップの語学に続くのが金融となっています。理由は色々あるでしょうが、ファイナンスの知識や分析手法は、経済の不確実性が増している中で個人の資産管理や投資判断に欠かせない要素と考える人や、日々の生活で金融に関する判断や選択を行う場面が増えており、ローンやクレジットカード、投資、年金、保険など、さまざまな金融商品や制度に関する知識が求められていると感じる人、将来のキャリアに対して有利に働くと感じる人が多いからであると思われます。

3 年次はグループワークを中心に、例えば、財務諸表ベースの業界当てクイズや積立 NISA の制度を考慮したポートフォリオ・コンテスト、関心のある題材でグループ研究などをおこない、基本的なファイナンスに関連する考え方や知識を高めていきます。また、経済・経営データやアンケートデータ、その他の資料などから分析をおこなう Excel などを用いたグループワークもおこないます。4 年次には引き続きグループワークをおこないますが、卒業論文という目標に向けて逆算する形でゼミ活動をおこないます。

その他には、先輩ゼミ生と合同ゼミや夏のゼミ合宿等があります。なお、演習の無断欠席は全体のモチベーションを著しく低下させるので正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。上記のような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。ゼミ活動に対する意欲がある学生であれば、ファイナンスの前提知識があまり無くても歓迎します。ゼミ説明会や学生によるゼミナール紹介のページ等も参考にして下さい。

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OGの進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展に関する実証研究

演習の内容

このゼミでは、日本の経済・産業・企業を長期的視点から理解することを目指します。日本が非西欧諸国・地域の中でいち早く経済発展を実現し先進国に成長したのはなぜか、どのような産業・企業が経済発展を牽引したか、企業家・業界団体・政府などのアクターの役割は何か、日本の経済発展と他の先進諸国の発展パターンと共通点と相違点は何か、第2次世界大戦後に日本の経済成長が加速したのはなぜか、経済成長の成果はどのように人々の間に分配されたか、経済発展は政治にどのような影響を与え、逆に政治は経済発展にどのように影響したか、1990年代以降、経済成長が減速した日本の経済・産業・企業が直面している課題は何か、など長期的視点から見ると日本の経済発展には、興味深く、重要な問題がたくさんあります。これらの問題に関する先行研究を読み、今後研究すべき残された課題について考えて行きます。あわせて、先行研究をもとに、問いの立て方、データの収集の方法、データの計量分析の方法について学習します。これらの学びをもとに、日本の経済・産業・企業について研究すべき問いを立てて、卒業論文でその問いについて研究します。また、課外授業として、東京大学経済学部資料室・図書館の見学等も行います。

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問いに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バー業態変化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

経済・経営のデータ分析について学ぶ

演習の内容

近年、意思決定や場で、エビデンスを示すことが重要視されつつあります。この流れを受けて、ビジネスや政策の場でもデータ分析が果たす役割が大きくなりつつあります。本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を習得し、卒業論文を執筆することを通じて、就職先や進学先でこれらの知識を活用するための準備を行います。

(演習の進め方)

- ・3年次: 教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Excel や R などのソフトウェアの使い方を学ぶ時間を設けます。
- ・4年次: 卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行います。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた研究であれば、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。過去の卒業生は、企業の ESG 投資の決定要因の分析、航空会社の財務状況とその決定要因の分析、鉄道駅の乗降客数の決定要因の分析などを行いました。

(卒業後の進路)

過去の卒業生は、IT、金融業などに就職されています。経済学研究科をはじめとした大学院進学希望者も歓迎します。

(受講にあたっての注意)

- ・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。
- ・本演習では、データ分析というテーマを設定している都合上、数学の知識や PC スキルが必要になることがあります。ただし、あくまでも数学や PC を勉強するゼミではなく、どのようにそれらを使うのかに重きを置きます。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

起業と海外取引

演習の内容

■まとめ■

現在、レアアースの輸入で高いシェアを誇る商社社長である小滝とともに海外との取引や起業ビジネスプランを学びます。世界を舞台に活躍でき、また起業もできるような一流の国際ビジネスパーソンの基礎と英語力を身に付けるゼミは第11期を迎えます。

■学び■

- ①年間を通して4名の小グループで活動しゼミでの発表などを行います。
- ②毎週のゼミでは貿易と経営に関する専門書を輪読・発表して、全員で熱気溢れる討議が行われます。また、小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを完成させます。
- ③様々なテーマでの意見交換やプレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑応答などが得意になり、コミュニケーション力を武器にまで伸ばすことができます。

■強み■

- ①ロンドン在住17年・レアアース商社経営25年の現役社長とともに学べます。
- ②自らが商社を起業するプランを考えアウトプットすることで貿易と経営の両面を楽しく学べます。将来、起業はもとより海外取引業務、海外出張・駐在、部門経営、社内ベンチャー、独立開業などに活かせる実力が自然に自分のものになります。
- ③一流企業との接点が豊富です。例年10社超の一流商社・銀行他の幹部を招いての授業やビジネスプラン発表会は好評を博しており、多くの採用にも繋がっています。

■進路■

第1期生から一流の企業で働くゼミ生はすでに200名に迫り、ゼミや発表会・パーティには多くの先輩が参加してくれます。卒業生の主な進路は、以下の通り。(敬称略)

- ① 商社：日鉄物産、阪和興業、兼松、岡谷鋼機、日立ハイテク、マクニカ、野村貿易
- ② 銀行・証券：三井住友銀行、りそな銀行、横浜銀行、千葉銀行、みずほ証券
- ③ メーカー：キーエンス、村田製作所、東ソー、マルマン、高砂香料
- ④ 航空：日本航空、全日本空輸、JALスカイ、ANAエアポートサービス
- ⑤ IT：LINE、楽天、BIPROGY、NTTコムウェア、U-NEXT、アライドテレシス
- ⑥ 国際物流：郵船ロジスティックス、近鉄エクスプレス、西日本鉄道、鈴与

■リンク■

小滝ゼミインスタグラム：[mgu_seminar6](#)

小滝経営レアアース商社ホームページ：[www.mtc-j.com](#)

藤田 晶子 ゼミナール

演習のテーマ

企業分析－企業の経営戦略と財務情報－

演習の内容

開示規制や情報を理解し、その活用をつうじて企業の経営戦略を分析し、成否を検証する力の習得を目的とする。具体的に、次の内容を想定しているが、学生諸君にも相談しながらすすめていきたい。

1. 各国における資本市場と開示規制
2. 経営戦略の成否とそれが財務数値・株価にあたる影響
3. ブランド力・技術開発力とそれが利益にあたる影響
4. 企業結合取引(M&A)におけるのれんの評価とその推移
5. 利益操作手法と株価

などなど。

マイヤーオーレ ヘンドリック ゼミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園 保則 ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on various aspects of public speaking. Through two years of seminar activities, students will master the fundamental principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. In addition, the seminar aims to prepare students for their future careers by fostering confidence and professionalism in public speaking.

During the third year (2027), students will learn the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, in preparation for writing their graduation thesis in English in their final year (2028), students will write multiple drafts of essays supported by logical arguments and evidence from texts.

In the fourth year (2028), students will explore the theoretical aspects of public speaking in greater depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological factors. They will apply these concepts when analyzing the performances of public speakers and will select and examine several speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from these analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English.

山田 純平 ゼミナール

演習のテーマ

グローバル企業の分析と国際会計

演習の内容

本演習では、決算書を通じてグローバル企業の経営分析を行い、さらに会計基準の国際的な動向について学びます。その過程で、企業会計についての基礎事項について習得できます。

グローバル企業の経営分析では、海外企業の決算書を分析し、その分析をもとに、どのような経営戦略をとっているかについて検討します。決算書の分析だけでなく、将来を予測して、企業価値の算定まで行うこともあります。まずは、企業分析や企業価値評価について説明した本を読んだ後、各自が海外企業を分析し、その結果を報告してもらいます。

国際会計の分野では、ルールが国際的に収斂する一方で、各国でそのルールがバラバラに適用される傾向にあります。そこで、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、国際的なルールの動向を学んだうえで、各国でそのルールがどのように適用されているかについて検討することを目標とします。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっています。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができることを目的としています。3年秋学期に留学に行く学生については、研究会での報告は免除します。またゼミの人数が少ない場合には、相談のうえ報告会には参加しないことにします。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。1年間かけて論文を執筆することにより、論理的な思考力が鍛えられるので、卒業論文を執筆することを望みます。

ここまでは例年の演習の内容を書きましたが、参加者のニーズに合うように、演習のなかで相談したうえで、運営していきたいと考えています。